

(7) 野菜低コスト供給パートナーシップ確立事業

ア 加工・業務用野菜の生産流通コストの低減に向けた課題とその解決のために導入する取組の内容

項目	課題	導入する取組	備考
物財費			
労働費			
集出荷経費			
処理加工費			
運送費			

イ 生産・流通経費削減効果

効果項目	指 標	現在（平成 A 年度）	目標（平成 B 年度）	効 果 （100 - B/A）
生産段階	野菜 1 kg 当たり費 用合計	円 / kg	円 / kg	%
	物財費	円 / kg	円 / kg	%
	種苗	円 / kg	円 / kg	%
	肥料	円 / kg	円 / kg	%
	薬剤	円 / kg	円 / kg	%
	光熱動力費	円 / kg	円 / kg	%
	農機具費	円 / kg	円 / kg	%
	建物費	円 / kg	円 / kg	%
	生産管理費	円 / kg	円 / kg	%
	その他諸材料費	円 / kg	円 / kg	%
	労働費 （労働時間）	円 / kg （時間）	円 / kg （時間）	%
	家族労働費 （労働時間）	円 / kg （時間）	円 / kg （時間）	%
	雇用労賃 （労働時間）	円 / kg （時間）	円 / kg （時間）	%

流通段階 1	野菜 1 kg 当たり流通経費	円 / kg	円 / kg	%
	集出荷経費	円 / kg	円 / kg	%
	処理加工費	円 / kg	円 / kg	%
	運送費	円 / kg	円 / kg	%
流通段階 2	野菜 1 kg 当たり流通経費	円 / kg	円 / kg	%
	集出荷経費	円 / kg	円 / kg	%
	処理加工費	円 / kg	円 / kg	%
	運送費	円 / kg	円 / kg	%
合計	+ +	円 / kg	円 / kg	%
	単収	kg / 10a	kg / 10a	%

- (注) 1 「農機具費」は、減価償却費、修繕費及びリレー利用に係る経費とする。  
2 「建物費」は、減価償却費及び修繕費とする。  
3 「生産管理費」は、事務用机、消耗品、パソコン、複写機、ファクシミリ、電話代等の生産管理労働に伴う諸材料費及び減価償却費とする。  
4 「流通段階 1」については、生産地における野菜の選別、調製、包装及び貯蔵等に係る集出荷経費、皮むき及びカットその他の加工に係る処理加工費並びに取引先（流通業者又は実需者）への輸送費について記入。  
5 「流通段階 2」については、生産地から入荷した野菜の集出荷経費、処理加工費及び取引先（流通業者又は実需者）への出荷に係る輸送費について記入する。  
6 「流通段階 2」については、生産地から実需者へ野菜が直送される場合は記入しない。  
7 複数の流通段階を経て実需者へ出荷される場合には、流通段階 2 の欄の下に、適宜欄を設けて記入すること。

ウ 集出荷貯蔵施設

作目 及び 作物 名	栽培面積		生産量		利用農家数		集出荷 施設の 種類	施設数		処理量		1日当たり 最大処理		出荷時期		総出荷量		出荷先 別割合 (%)	備考
	現在	目標	現在	目標	現在	目標		現在	目標	現在	目標	現状	目標	現状	目標	現状	目標		
	ha	ha	t	t	戸	戸		か所	か所	t		t/日	t/日	月旬 ~ 月旬	月旬 ~ 月旬	t	t		

- (注) 1 「作物名」の欄は、必要に応じて品種別に記載する。  
 2 「栽培面積」及び「生産量」の欄は、当該流通施設を利用する集団に係るものとする。  
 3 現状と目標を併記する欄については、現状には既存施設の利用状況、目標には既存施設と事業により導入する施設を併せたものについて記入する。  
 4 備考欄には、施設の特徴(選別方式(重量選別、カメラ式、光センサー等)、予冷方式(真空式、差圧式、立体自動式等))を記入する。

工 処理加工施設

作目及び作物名	栽培面積		生産量		利用農家数		処理加工施設の種別	施設数		処理量		1日当たりの最大処理量	
	現在	目標	現在	目標	現在	目標		現在	目標	現在	目標	現状	目標
	ha	ha	t	t	戸	戸		か所	か所	t	t	t/日	t/日

原料購入予定先	原料購入量		製品種類	製品販売予定先	製品販売量			備考
	現状	目標			現状	目標	予定年間売上高	
	t	t			t	t	百万円	

- (注) 1 「作物名」の欄は、必要に応じて品種別に記載する。  
 2 「栽培面積」及び「生産量」の欄は、当該施設を利用する集団等に係るものとする。  
 3 「製品種類」の欄は、製麺、味噌加工等の加工品目の内容を記すとともに、必要に応じて、レトルト、無菌包装、冷凍、チルド、缶詰、乾燥等の保存等のための処理・包装等の形態も併せて記入するものとする。  
 4 現状と目標を併記する欄については、現状には既存施設の利用状況、目標には既存施設と事業により導入する施設を併せたものについて記入する。

オ 産地管理施設

作目及び作物名	施設名	施設の機能	規模、能力等	利用目的	利用方法	運営方法	設置場所	備考

- (注) 1 「利用方法」の欄には、対象作物、分析項目、調査点数、分析結果の活用方法等を記入すること。  
 2 「設置場所」の欄は既存の施設(集出荷施設等)内に設置する場合は記入すること。

カ 種子種苗生産関連施設整備

(ア) 品種別作付面積割合等

対象作目及び作物	現 在 ( 年 )									目 標 ( 年 )								備考
	作付面積	生産数量	10a 当たり 生産数量	出荷数量	栽培 農家 数	品種別作付面積割合				作付面積	生産数量	10a 当たり 生産数量	出荷数量	品種別作付面積割合				
						〇〇	××	その他	計					〇〇	××	その他	計	
計	ha	t	kg	t	戸	%	%	%	%	ha	t	kg	t	%	%	%	%	
計																		

- (注) 1 年次は、現在及び目標年次(種子種苗が生産者で栽培され、最初に収穫が行われる年の翌年とする。以下本様式において同じ。)について記入する。  
 2 年次の区分は、主たる収穫時期を含む年次とする。  
 3 主要農産物種子については、品種別の記載は不要である。

(イ) 種苗の生産計画

(単位：リットル、kg、本)

年次	対象作目及び作物 品種							計	備考
		×××	小計			小計			
目 標	( 年 年 年 年 )								

(注) 年次は、配布する最初の年から目標年次までとする。

(ウ) 種子種苗生産関連施設の整備内容

対象作目及び作物名	施設名	施設の機能	規模、能力等	施設の運営方法	設置場所	備考